

# 平成元年度 陵墓関係調査概要

## 陵墓調査室

当部においては古代高塚式陵墓及び埋蔵文化財包蔵地内にある陵墓の営繕土木工事を実施するにあたり、当調査室は例年のように各陵墓監区の協力を得て、施工区域における遺構遺物の有無確認や、適切な工法指導のため立会調査を行った。また墳丘表面調査も行い、各調査箇所は左記の通りである。なお本年度は事前調査はなかった。

- 一、塔尾陵（奈良県吉野郡吉野町大字吉野山字塔ノ尾 如意輪寺内）、防災整備工事（二個年計画 第二年度）箇所の調査。  
担当 中村直嗣、久保俊郎（畝傍監区、四々十月実施）
- 二、傍丘磐杯丘南陵ろ号陪冢（奈良県北葛城郡香芝町大字北今市）崩壊防止柵取替工事箇所の調査。  
担当 中村修也 畑山伊透（畝傍監区、六々八月）
- 三、衾田陵（奈良県天理市中山町）、鳥居改修工事箇所の調査。  
担当 北田和夫、村島三彦（畝傍監区、七々十月実施）
- 四、大原陵（京都市左京区大原勝林院町）、石積崩壊防止等工事箇所の調査。  
担当 井口久徳（辻井忠則、竹村哲也、山本忠浩）、（月輪監区、七々八月実施）
- 五、十楽院上陵（京都市東山区粟田口三条坊町）、鳥居改修工事箇所の調査。  
担当 鎌田恒雄（長浜敏男、中森 勇）、（月輪監区、八月実施）
- 六、障子内親王墓（京都市右京区鳴滝中道町）、参道入口部市道側溝敷設工事箇所の調査。  
担当 藤林幸祐、田端勝一（桃山監区、九月実施）
- 七、久邇静子墓（京都市東山区泉涌寺山内町）、鳥居改修工事箇所の調査。  
担当 福富 彰、巽 俊夫（月輪監区、九月実施）
- 八、河内磯長原陵（大阪府南河内郡太子町大字春日）、侵入防止柵取替工事箇所の調査。  
担当 福尾正彦、真銅慶一、松谷良寛（古市監区、十一月実施）
- 九、桃山陵墓地（京都市伏見区桃山町）、公共下水道敷設箇所の調査。

担当 西村英樹、石塚俊光（桃山監区、十一、十二月実施）

一〇、高野山天皇皇族髮齒爪塔地（和歌山県伊都郡高野町大字高野山）、

隣接河川砂防工事箇所調査。

担当 平木由喜久、松谷良寛（古市監区、一月実施）

二、山道上陵（奈良県天理市渋谷町）、隄内土砂浚渫箇所調査。

担当 北田和夫、村島三彦（畝傍監区、一月実施）

三、磐園陵墓参考地陪冢（奈良県大和高田市大字築山）、境界線崩壊防

止工事箇所調査。

担当 中村修也、畑山伊透（畝傍監区、一月実施）

三、北山陵（京都市北区衣笠西尊上院町）、見張所改築工事箇所調査。

担当 中川幸信、川下幸誠（月輪監区、一～三月実施）

四、畝傍陵墓監区事務所（奈良県橿原市大久保町）、電源引込線改修工

事箇所調査。

担当 西田哲也、大井康雄（畝傍監区、二、三月実施）

二五、桃山陵墓地（京都市伏見区桃山町）、水道管理代替工事箇所調査。

担当 瀬崎 真、西村英樹、芳村弘士（桃山監区、二、三月実施）

二六、安楽寿院南陵（京都市伏見区竹田内畑町）、見張所改築工事箇所

調査。

担当 笠野 毅、今西良孝、佐藤晋治（桃山監区、三月実施）

二七、畝傍山東北陵（奈良県橿原市大久保町）、御休所排水管改修・付属

地内水路改修工事箇所調査。

担当 西田哲也、大井康雄（畝傍監区、三月実施）

〔墳丘表面調査〕

一八、衾田陵（奈良県天理市中山町）。大市墓（奈良県桜井市大字箸中）

担当 笠野 毅、福尾正彦、北田和夫、村島三彦、西村寛治

一九、磯長山田陵（大阪府南河内郡太子町大字山田）

担当 笠野 毅、福尾正彦、木村成嘉、井上 武

二〇、大塚陵墓参考地（大阪府松原市西大塚一丁目、羽曳野市南恵我之荘

七丁目）

担当 笠野 毅、福尾正彦、谷垣孝実、井上 武

右の内、各立会調査は当調査室の指導のもとに、所管監区調査担当職

員が行い、とくに八と六は当調査室員が出張して行った。

一は前年度に引き続きのもので、岩盤層の斜面地で何も認められなかつ

た。二と三は共に墳丘に近接して民家が建ち、従来の木柵では防護でき

なくなつたので、コンクリート柱に取り替えるため裾を、深さ一〇五セ

ンチメートル掘削したが、いずれも上方は近代の磁器片等の混ざつた盛

土、下部も後世の盛土層であつた。

三、五、七の鳥居改修工事は何れも、既設箇所と同じ場所で、すべて前

回の埋戻し土のみで特記する遺物はなかつた。

四は見張所北側にある石積箇所の崩壊防止のための積み直しと、域内

水道管敷設工事に伴い掘削が行われたが、いずれも上部は盛土層、下部

は礫を含む茶褐色砂質層で、遺物はなかつた。

六は深さ六〇センチメートルで地山にあたり、その上はアスファルト舗装時の碎石、盛土層であった。工事は京都市によるものである。

八は昭和六十二年度工事に引き続き御陵北側の隣接地との境界線における土留擁壁と侵入防止柵取設工事に伴う掘削箇所調査である。深さ一・〇メートルで地山を検出、その上は現代の埋め立て土を含む攪乱層で、遺物も近世以前のものではなかった。

九は陵墓地参道入口付近真福寺前の道路下に、下水道管理設工事に伴い、一部陵墓地にかかる箇所を立会調査した。真福寺門前で一・六メートルほど掘り下げた所で、桃山時代と思われる垣跡が見つかり、瓦片と礫等も出土したが垣跡は陵墓地外であった。これも工事は京都市によるものである。

一〇は高野山奥ノ院の地域で、隣接玉川の護岸・砂防改修工事に伴うもので、既設護岸石積みを取りはずしたところ、三〇センチメートル四方の石塔笠石一、高さ三〇センチメートル前後の石塔四が出土した。この付近からは同様のものが多数出土していることが、高野町教育委員会の調査員から説明された。その他には遺構もなく、和歌山県による改修工事は予定通りおこなわれた。

二は本陵前方部向かって左前方の堆積土砂を浚渫したもので、地元土改良組合によって実施された。堆積土深さ約七〇センチメートルを浚渫したが、全体に泥混じりの砂質土層で、現代の遺物も見られ、上流から流入した土砂であることを確認した。なお本来の堀床には達しなかつ

た。

三は在来建物位置を東へ約五メートルずらした箇所へ建てるもので基礎部分の掘削箇所を調査したが、遺構遺物はなく工事をおこなった。

四、七は同地域で、それぞれ約五〇センチメートル掘削したが、何ら遺構も遺物もなかった。

五は南参道から事務所に至る約三一五メートルに水道管を埋設替するもので、その間十箇所を幅〇・五メートル、長さ一メートル、深さ〇・八メートル掘削し、あとは工事中立会ったが、真ん中辺の掘削箇所から、瓦片八個が出土したほか、最近の磁器片が多く混じっており、遺構はなかった。

一六は鳥羽離宮跡地の一角である。工事は旧見張所の北に隣接する箇所、基礎部分を約一メートル掘削した。表土の下は灰褐色粘土砂利混じり層、次が黄色がかかった灰褐色砂質土砂利混じり層で、上層には燻瓦片が在った。そのほかそう古くない井戸跡があり、一部が工事箇所にかかった。その他特筆するものはなく、工事をおこなった。

一七―一八の表面調査の結果は後掲の通りである。

なお、衾田陵、大市墓の墳丘部で採集した岩石（葺石）、および河内大塚陵墓参考地所在の大石については、国立科学博物館加藤昭氏にご鑑定を願ひ、岩石学的観点からの調査結果をも所収することができた。

(飯倉晴武)